

YNS / 山五十嵐こども園

園を村のようにつくり、村を園のように育てる

山五十嵐こども園は「しぜんに、しぜんと」を理念とするこども園である。自然豊かな砂丘の頂を敷地とする木造平家建の園は、歩を進める毎にパラパラとシーンやニッチを展開し子供達に多様な拠所を提供する。「園を村のように作り、村を園のように育てる」ことをコンセプトとして、保育室、更には園舎、園庭を越えて村全体までを一つの連続体とする、こどもたちの学びと遊びに寄添う大きな保育環境の構築を目指した。大きな材が運べない敷地条件のもと、頂点が上を向いたトラスと下を向いたトラスを現地で組み合わせ、トラス屋根の連続を作っている。トラスの交点を間仕切り壁の上からずらして載せることで、各室ごとに表情の異なる環境を作り出すと同時に、間仕切り壁の上部に抜けを作り、各室を緩やかにつなげている。この「境界の弱いこども園」は子供達の学びと遊びに柔軟性と拡張性を生み、みんなの思い思いに応え、村に新しい日常を作り始めている。



夕景の園舎外観を見る



回廊が木とデッキでアプローチを見る



土間広場を見る
くねくねとした道はこどもたちの走るスピードを緩める役割も果たす



夕景の園舎外観を見る
村の特徴を継承したくねくねとした土間の道とトップライトタワー



プレイデッキを見通す



2 歳児室からほふく室まで見通す
園室同士の空気や気配が上部で繋がる



5 歳児室を見る

敷地は新潟市西区五十嵐3の町西。日本海ほど近く、農業と漁業が混ざりあう場所にある。フィールドワークを行い、地域の生活や根付いている文化を探した。この土地にみられる特徴的な風景として、くねくねとした細道、お寺やお墓、稲穂の自然乾燥のための「はさ木並木」や、かつてタバコ畑で栄えたこの土地だからこそ、旧タバコ小屋の特徴的な形、タバコ農家衰退の後、タバコに代わるこの土地に適した作物を、各自が様々なトライ＆エラーを重ねてきた結果である美しいモザイク畑が見られる。これらの形や文化、営みを、未来へ繋ぎ更新していくことの意義を考えた。

